

新型コロナウイルス感染症の感染拡大下 における自殺の状況について

健康医療局保健医療部がん・疾病対策課

2022.1.7

分析の目的と活用

1 警察庁自殺統計 + 社会状況 分析

- ・2007年からの警察庁自殺統計を活用し、本県の自殺者の傾向把握
- ・2020年と過去の傾向を比較し、コロナ禍の傾向把握
- ・社会状況との関連性も分析



全体的アプローチに向けた対策検討の基礎資料

2 LINE等相談実績 分析

- ・個別相談ケースから、県民の生きづらさの要因を把握



個別的アプローチに向けた対策検討の基礎資料

「新型コロナウイルス感染症の感染拡大下における自殺の状況」構成

1 2020(令和2)年の自殺の概況の見える化

- (1) 全体概況
- (2) 男性の概況
- (3) 女性の概況
- (4) 著名人の自殺及び自殺報道の影響

2 女性の自殺者の増加

3 学生・生徒等の自殺者の増加

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

付録

- i 年齢階級別自殺者数の状況
- ii 他県と比較した本県の自殺者数の状況
- iii 自殺対策に関する参考統計資料

1(1) 2020(令和2)年の自殺の概況の見える化(全体)

項目	内容
自殺者数・自殺死亡率	・近年減少傾向だが、2020年は 自殺者数、自殺死亡率ともに大きく増加 自殺者数1,269人(前年比+193人) 自殺死亡率13.7(前年比+2.0)
男女別	・男性は減少。女性は増加。 女性の割合は2007年以降最大 。(36.1%)
年齢階級別	・ 20歳代が大きく増 。(2020年178人 5年平均134.8人) ※20歳代の原因・動機では「 勤務問題 」の比率が増。
職業有無別	・ 女性の有職者の増加 が顕著。(2020年112人 5年平均72.8人)
職業別	・「 被雇用者・勤め人 」が増。(2020年427人 5年平均377.6人) ・「 学生・生徒等 」が増。(2020年75人 5年平均50.4人)
月別	・上半期は過去5年平均を下回り、下半期は上回った。 特に10月の増が顕著 。 ※コロナの新規陽性患者数との明らかな相関は見られない。 ※ ウェルテル効果の影響の可能性あり 。
自殺地・場所・手段	・ 県内で発見された自殺者の県内居住者の比率は例年同様 。 (2020年97.4% 5年平均97.2%) ・「 自宅等 」、「 首つり 」の比率が男女とも上昇。
自殺未遂歴の有無	・例年同様、 女性の方が男性より「未遂歴あり」が多い 。(男性14%、女性34%) ・特に、「 19歳以下 」の女性の「 未遂歴あり 」が 50% と高い比率。

1(2) 2020(令和2)年の自殺の概況の見える化(男性)

項目	内容
自殺者数・自殺死亡率	<ul style="list-style-type: none"> ・ピークの2009年(1,309人)から最少の2019年(732人)まで、577人の減。2020年は増加。 ・自殺者数811人(前年比+79人)
年齢階級別	<ul style="list-style-type: none"> ・20歳代が大きく増。(2020年116人 5年平均96.2人) ・20歳代の職業別では「被雇用者・勤め人」が増。(2020年61人 5年平均45.0人) ※20歳代の原因・動機では「勤務問題」の比率が増。
職業別	<ul style="list-style-type: none"> ・「被雇用者・勤め人」が増。(2020年328人 5年平均312.6人) ※「被雇用者・勤め人」の内訳では「専門・技術職」(医療・保健従事者を含む)が最も増加。 ・「学生・生徒等」が増。(2020年47人 5年平均34.8人)
原因・動機別	<ul style="list-style-type: none"> ・「勤務問題」(2020年39% 5年平均37%)と「健康問題」(2020年15% 5年平均13%)が最も増加。 ※「健康問題」のうちで最も多い「病気の悩み・影響(うつ病)」とともに計上された原因・動機では「経済・生活問題」が最多で、「健康問題」「勤務問題」と続く。
月別	<ul style="list-style-type: none"> ・8月以降、過去5年平均を上回り、特に10月の増加が目立った。 ※8月以降の増は、主に「若年層」「中高年層」の増の影響が大。
期別・職業有無別	<ul style="list-style-type: none"> ・特に下半期の「有職者」の増加が目立った。 ※下半期の「若年層」及び「中高年層」の原因・動機は「勤務問題」が増。

1(3) 2020(令和2)年の自殺の概況の見える化(女性)

項目	内容
自殺者数・自殺死亡率	<ul style="list-style-type: none"> ・近年減少傾向だが、2020年は増加 自殺者数458人(前年比+114人) ※1年で100人を超えて増加したのは、2007年以降で初。
年齢階級別	<ul style="list-style-type: none"> ・20歳代が大きく増。(2020年62人 5年平均38.6人) ・20歳代の職業別では「被雇用者・勤め人」が増。(2020年23人 5年平均10.8人) ※20歳代の原因・動機では「健康問題」が増。
職業別	<ul style="list-style-type: none"> ・「被雇用者・勤め人」が増。 ※「被雇用者・勤め人」の内訳では「専門・技術職」(医療・保健従事者を含む)が最も増加。 ・「学生・生徒等」、「主婦」が増。
原因・動機別	<ul style="list-style-type: none"> ・「健康問題」が最も増加。次いで、「勤務問題」。 ※「健康問題」のうちで最も多い「病気の悩み・影響(うつ病)」とともに計上された原因・動機では、「家庭問題」が最多で、「健康問題」、「経済・生活問題」、「勤務問題」と続く。
月別	<ul style="list-style-type: none"> ・7月以降、過去5年平均を上回り、特に10月の増が顕著。 ※7月以降は、ほぼすべての年齢階級で増。
期別・職業有無別	<ul style="list-style-type: none"> ・特に下半期は「有職者」「無職者」とともに増。下半期の原因・動機は下記のとおり。 「若年層」 有職者:家庭問題、勤務問題 無職者:健康問題、家庭問題 「中高年層」有職者:経済・生活問題、健康問題 無職者:健康問題、家庭問題 「高齢者層」有職者:健康問題 無職者:経済・生活問題

2 女性の自殺者の増加（被雇用者・勤め人、主婦）

	項目	内容
被雇用者・勤め人	月別	・7月以降継続して増加傾向。12月が最多。 ※この間の原因・動機では、「家庭問題」「勤務問題」の増加が目立った。
	年齢階級別	・30歳代が最多で、次いで20歳代。 ※過去5年平均との比較では20歳代の増加が最多。
	原因・動機別	・「健康問題」が最多、次いで「家庭問題」、「勤務問題」の順。 ※女性全体の原因・動機と比較すると、「健康問題」の比率が低く、「勤務問題」の比率が高い。 ※過去5年平均との比較では「家庭問題」の増加が最多で、次いで、「勤務問題」が多い。
	職種別	・「専門・技術職」（医療・保健従事者を含む）が最も多く増。
	年齢階級別・職種別	・「若年層」では「専門・技術職」、「中高年層」では「販売従事者」が最も増加。
主婦	月別	・主に7月以降過去5年平均を上回って推移。10月が最多。 ※7月の原因・動機は、「家庭問題」が、10月は「健康問題」と「家庭問題」の増加が目立った。
	年齢階級別	・40歳代が最多で、次いで50歳代、60歳代の順。 ※過去5年平均との比較では40歳代の増加が最多。
	原因・動機別	・「健康問題」が最多、次いで「家庭問題」の順。 ※女性全体の原因・動機と比較すると、「健康問題」、「家庭問題」の比率が高い。 ※過去5年平均（構成比）との比較では「健康問題」の増加が最多で、次いで「経済・生活問題」。

3 学生・生徒等の自殺者の増加

項目	内容
自殺者数	<ul style="list-style-type: none"> ・2012年以降減少傾向で、2018年は40人。 ・2019年から増加傾向で2020年は75人。(前年比+20人)
男女比	<ul style="list-style-type: none"> ・女性の比率が上昇し37%に。(過去5年平均比+6%)
「児童・生徒」 (小・中・高校生)	<ul style="list-style-type: none"> ・男女とも増だが、女性の方が増加率が高い。 ・原因・動機別：健康問題、学校問題が多い。 ・月別：夏休み期間中を含むの7月下旬～8月上旬が他の時期より多い。 男子生徒は8月、女子生徒は7月に増加
「大学生・専修学校生等」	<ul style="list-style-type: none"> ・男女とも増だが、女性の方が増加率が高い。 ・原因・動機別：学校問題、健康問題が増加が大きい。 ・月別：8月下旬～10月下旬が他の時期より多い。 男子学生は9月、女子学生は10月が最も多く増加

※学生・生徒等の原因・動機 小分類(多いもの)

男子学生・生徒等：「その他進路に関する悩み」「親子関係の不和」「学業不振」

女子学生・生徒等：「病気の悩み・影響(うつ病)」、「学業不振」、「孤独感」

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

1 「いのちのほっとライン@かながわ」概要

- ・相談期間 2020年4月24日～2021年3月31日
- ・相談時間 月～金曜日及び日曜 17:00～22:00
- ・相談対象 神奈川県内の居住者、通学・通勤者
- ・友だち登録数 9,787人(2021年3月31日現在)
- ・相談対応件数 7,115件

2 分析可能対象数

相談件数(件)

性別	相談件数
男性	1258
女性	4357
不詳	187
計	5802

年代	相談件数
20歳未満	641
20歳代	1050
30歳代	1385
40歳代	1463
50歳以上	920
不詳	343
計	5802

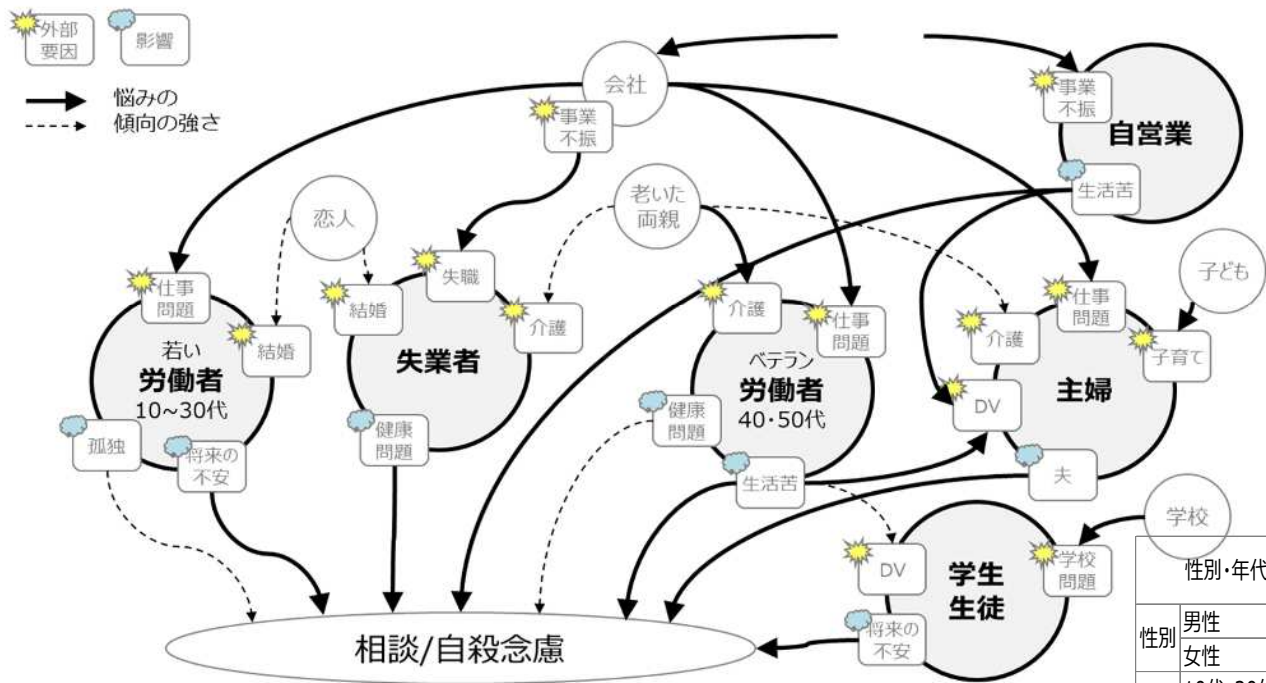
職業	相談件数
自営業・家族従業者	35
被雇用者・勤め人	1145
学生・生徒等	808
主婦	77
失業者	192
その他の無職者	198
不詳	3347
計	5802

相談者数(人)

	男性	女性	不詳	合計
19歳以下	28	164	11	203
20歳代	67	300	3	370
30歳代	74	318	6	398
40歳代	76	267	2	345
50歳以上	60	179	2	241
不詳	8	77	90	175
合計	313	1305	114	1732

4 【参考】2020年度におけるこころの悩みにかかるSNS相談の状況

4 相談頻出ワード分析



性別・年代・職業	頻出ワード										
	仕事	生活苦	将来	健康	介護	子育て	夫/妻	DV	学校	結婚	孤独
性別	●	●		○	○						
女性	●	○	○	○		○	●	○	○		
年代											
10代・20代	●	○	●					○	●		
30代	●		●	○			●			○	○
40代	●	○			○		●	○			
50代・60代	○	●		○	●		●	○			
職業											
失業者	●			●	○					○	
被雇用者・勤め人	●	●								○	○
自営者・家族従業員	●	●						●			
主婦	●	●			○	●	●				
学生・生徒等			●					○	●		

全体的アプローチに向けて

1 結果の公表(2021年12月24日)

- ・ 警察庁の自殺統計を活用した分析結果については、公表し、市町村や、様々な分野における対策の検討のための基礎資料として活用。
※警察庁統計の分析には、個人に紐づいた統計分析が必要となるが、国や県の公データは集計されたデータのみ。今回の分析は、個人に紐づいた統計データを基礎として詳細分析を行っているため、より実態に即した対策の検討を行うことが可能。

2 庁内会議における対策検討

- ・ 分析から把握できた性別、年代別、職業別の状況を基に、対象者別のより効果的な対策を検討、実施。

3 かながわ自殺対策会議における対策検討

- ・ 有識者など様々な自殺対策にかかる関係者からなる対策会議でも分析結果を共有し、対策を検討。特に、大学生、被雇用者対策、ジェンダーの視点については、具体的な最優先課題として進める。(大学や職域関係者との連携も視野)

個別的アプローチに向けて

1 LINE相談分析を活用したハイリスク者に向けたアプローチ検討

- LINE相談実績を分析することで、コロナ禍における県民の悩みの状況を把握し、自殺企図や自殺願望のある方からの相談を基に、ハイリスク者の傾向や自殺の危機経路、効果的なアプローチ等の検討を、精神保健福祉センター、保健福祉事務所等とともに行う。

2 市町村、関係機関との共有、顔のみえる関係づくり構築に向けた取組

- 分析から把握できた状況や、上記アプローチ検討の状況を庁内会議、市町村や、かながわ自殺対策会議等の関係機関と共有し、施策の検討を進める。